

## トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト 令和6年度の取組みについて

番匠 絵美（北海道十勝総合振興局保健環境部環境生活課自然環境係）  
永田 拳吾（環境省大雪山国立公園管理事務所上士幌管理官事務所）

トムラウシ南沼野営指定地（以下、「南沼野営指定地」）は、大雪山国立公園特別保護地区内に位置し、多くの高山植物が一面に咲き乱れる美しい景観が広がる一方で、長年にわたって深刻なトイレ問題を抱え、登山者から「日本一汚い幕営地」と揶揄されてしまうほどの状況であった。

本問題について、「トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト」（以下、「南沼プロジェクト」）と称する取組みが、平成29年4月に開始された。以来、南沼プロジェクトでは、関係行政機関や山岳関係団体等が協働し、南沼野営指定地の環境改善や携帯トイレ普及などの各種取組を推進している。本稿では、令和6年度における南沼プロジェクトの主な取組みについて紹介する。

南沼プロジェクトの立ち上げや、過年度の取組み状況については、第24回及び第25回などこれまでのフォーラム寄稿を参照いただきたい。

### 【1. 携帯トイレ配布ボックスの継続設置】（北海道 十勝総合振興局）

令和6年度も、過去3年に引き続き、トムラウシ短縮登山口（以下、「短縮登山口」）に無人の携帯トイレ配布ボックスを設置し、携帯トイレ持参を忘れた方や、南沼野営指定地にトイレがないことを知らなかった方でも、協力金（携帯トイレ1個当たり500円）を支払うことで、携帯トイレを入手できる取組みを実施した。

協力金は、南沼プロジェクト事務局である十勝総合振興局環境生活課で回収しており、携帯トイレ補充の原資としている。

令和3年、4年の取組では、1個当たりの協力金は396～398円と、携帯トイレ補充で手一杯の金額であり、目標とする500円には及ばない状況であった。

しかし、令和5年度については過去2年を大きく更新し、1個あたり511円を記録した。さらに、令和6年度は1個あたり586円を記録し、過去最高となった。

協力金の額が大きく増加した要因としては、新型コロナウイルスの5類引き下げによる登山者の増加、登山者の山に対する意識向上などが考えられるが、いずれにしても継続的に協力金を頂戴できるようさらなる普及啓発が必要である。

今後、協力金の額がさらに増えてくれば、携帯トイレ補充以外にも、登山道の補修や維持管理にも活用したいところである。

令和6年度の配布実績については次頁のとおり。

トムラウシ短縮登山口 携帯トイレ配布ボックス 協力金回収実績（確定値）

設置期間：令和6年6月14日（金）～令和6月10月1日（火）

総配布数（個）	回収金額（円）	協力金／個（円）
153個	89,663円	586円

（参考：令和5年度 配布数 195個、協力金／個 約511円）

参考 携帯トイレ回収数（単位：個）

	6月	7月	8月	9月	合計
短縮登山口	12	457	270	230	969
温泉登山口	11	133	100	29	273
計					1,242個

（参考：令和5年度 回収数 1,602個）

【2. 野外し尿痕跡調査】（環境省 上士幌管理官事務所）

南沼プロジェクトでは、平成28年度以降、南沼野営指定地におけるトイレ問題の改善状況を把握するため、野外に放置されたティッシュ・大便（以下、「痕跡」）を回収し、それらの数と位置を記録する調査を継続実施している。

また、令和5年度からは植生への踏み込みを極力避ける観点から、ドローンを活用した遠隔調査を導入した（令和6年度は強風のため踏査調査とした）。

令和6年度調査総括

- 初回調査（7/3）では、十勝岳連峰方面への縦走線から南に分岐するトイレ道、旧携帯トイレブース横トイレ道から直近の大岩、野営指定地中心にある大岩の周囲、野営指定地のロープ際を探索したが、痕跡は確認されなかった。
- 2回目調査（9/19）では、ティッシュが4箇所、大便が1箇所で見つかった。
- また、痕跡はないものの、排尿の集中による植生の変色が旧携帯トイレブースの裏と野営指定地周辺の岩陰の2箇所で見られた。
- 7月から9月にかけて本野営指定地で撮影されたテント数は合計439となり、昨年からは微増、ほぼコロナ前に戻ったが、痕跡の数は継続して低いままであった。

● 令和6年度の回収実績

日付	時間帯	回収数	備考
7月3日	08:30	0	
9月19日	08:30	5	
計		5	

● 過去の回収実績

年度	日付・回収数							計	最大値
H28		7/2(土)	7/26(火)				10/1(土)	49 以上	30
		不明 全数回収	30				19		
H29	6/28(水)	7/15(土)	7/26(水)	7/30(日)		8/14(月)	9/16(土)	43	17
	6	2	6	5		17	7		
H30	6/25(月)	7/24(火)	7/25(水)	7/28(土)	8/6(月)	8/12(日)	9/16(日)	38	13
	1	13	2	1	5	6	10		
R01		7/4(木)	7/23(火)			8/12(月)	9/14(土)	13	7
		0	0			6	7		
R02			7/16(木)				9/16(水)	14	9
			5				9		
R03		7/1(木)	7/28(水)		8/9(月)	9/2(木)		16	6
		6	4		3	3			
R04	6/28(火)						9/26(月)	4	2
	2						2		
R05		7/5(水)					9/21(木)	5	4
		4					1		
R06		7/3(水)					9/19(木)	5	5
		0					5		

※平成 30 年度までは山のトイレを考える会等の協力を得ながら実施。令和元年度以降は環境省単独で実施。

<考察>

南沼野営指定地への携帯トイレブース設置以降、痕跡数は年々減少し続け、ここ3年は毎年5個以下となっている。痕跡が確認される位置についても、近年はテント場付近に限定されており、植生の踏み荒らしも減少している。また、南沼に至る中継点にあるカムイサンケナイ川沿いに設置した仮設トイレブースについても、令和5年度のカウント数が101であったのに対し、令和6年度のカウント数は162となっており、トムラウシ山線の利用者数が令和5、6年共に約3500人と登山者数が変わらない中で利用者数が増加しており、携帯トイレの普及が進んでいることが伺える。今後も痕跡状況を調査すると共に、ドローンの活用等により過去のトイレ道の植生復元状況のモニタリングを継続していきたい。